相当崩壊しつつある現状である。

なお麓の明治以降の変遷については，全麓の分類をして，その地域性を明らかにすることが，今後残された課題なのではなかろうかと思う。

山口県周防大島の農業地域に関する地理学的研究

吉　見　則　子

本論文では，瀬戸内西部の防予諸島に含まれる周防大島をとりあげ，島の基幹産業である農業の特色，農業地域の設定を通して，本島の地域性を導き出すことを目的とした。

第1章　地域の概観：本島は129.7 km^2 の面積をもち，瀬戸内の島では3番目に大きく，本土とは800mの距離をもって隔っている。島内・島外交通とも比較的恵まれ，隔絶性に乏しい。古くから農業を中心に開発され，現在も就業者数の50％前後を農業従事者が占め，島の経済基盤となっている。

第2章　自然環境：地形は山地，丘陵地，山麓緩斜面，沖積地，浜堤の5つに区分される。山地の高低，沖積地の広狭から島は胴体部の西半と肢節部の東半にわけられ，地形の違いが農業に大きな影響を与えている。

第3章　農業：ミカンを基幹作物とする本島では，明治初期には麦・甘藷，明治中期から昭和初期には桑，戦前の煙草・除虫菊の如く商品作物の変遷が著しかった。これは平地の少ないことによる水田作の不利なためで，導入作物は本土の経済状況を反映し，かつ収益性の大きい作物が自然環境と関連して導入された。又，平地が少ないため，傾斜地農業が促進され，戦前は畑，戦後はミカン園に利用されてる。傾斜と土地利用の間には密接な関係があり，水田は5℃以下，畑は6～15℃，ミカン園は16～25℃の所に多いことがわかった。基幹作物のミカンは気候をうまく利用した商品作物で，歴史も古く，品質もすぐれ，市場で好評を得ているが，農業技術，労働力，新興産地との競合などの点で多くの問題を残している。

第4章　農業地域区分：農業土地利用から戦前は西半の水田卓越地域と東半の畑卓越地域に，戦後は西部の水田卓越地域，中部のミカン卓越地域，東部のミカン＋畑地域に区分される。現在，西部地域は農業従事者率，専業農家率とも他地域に比して少ない。経営耕地規模は本土並みで，他の点からみても最も本土的色彩が強い。中部地域は専業農家が最も多く，純農村的色彩の強い地域で，ミカン単一経営農家も存在し，農業収入も高い。東部地域は未だ畑率が10％ぐらいで，経営耕地規模，農業収入とも少なく，島内随一の零細地である。三地域の地域差は単に景観面にとどまらず，農家経営にも存在するが，地形条件の差，本土からの距離差がこの要因としてあげられる。

第5章　東部地域の離島性に関する考察：離島振興法適用をうけている東和町の離島的性格は，本土からの隔絶性，交通整備の立ち遅れ，経済的後進性などに見られ，島外人口流出，生産活動低下などの問題をかかえている。今後，島の生活を大きく変えるものとして大島架橋建設計画があげられるが，建設以後の島の変化に関しては今後の研究に期待したい。

お知らせ

1．投稿規定

○お茶の水女子大学地理学科卒業生及び旧，現職員は本誌に投稿することができる。

○用紙は横書き400字詰原稿用紙とする。

○投稿の範囲・内容は特に規定しないが，研究論文・調査報告・近況報告などが望ましい。

○論文・報告は15～30枚，短報は2～3枚程度とする。

○しめきりは毎年5月末日とする。

○原稿送付宛先

東京都文京区大塚2丁目1番1号
お茶の水女子大学地理学教室
お茶の水地理編集委員会

2．住所・勤務先の変更，改姓の場合も上記宛御連絡下さい。

3．クラス会・同窓会などの様子もお知らせ下さい。

4．この「お茶の水地理」は御希望の方に実費でお頒ち致します。